



2022年12月15日第455号
全日本年金者組合京都府本部
〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町4-13
☎ 075-761-3213 FAX 075-761-3214
mail nenkin-kyoto@iaa.itkeeper.ne.jp
発行責任者 山本和夫

11月23.24日

日本高齢者大会 京都で開催



全体会 挨拶する田中浅雄代表委員

第35回日本高齢者大会が近畿から全国から3394人(オンライン含む)が参加し、11月23日、24日の両日京都市で開催されました。
2日目の全体会では、35年前京都で開催された第1回全国高齢者大会で提案された「日本高齢者憲章」に議論、検討が重ねられバージョンアップした「第3次草案・日本高

学習講座・分科会で学習、交流深まる

近畿から全国から3400名が参加

「日本高齢者人権宣言」を採択



「人権」と掲げられたボードを掲げる参加者

齢者人権宣言」を畑中久明大会実行委員会事務局長が提案しました。宣言は会場参加者の全員が「人権」と書かれたボードを掲げ採択されました。
採択された「宣言」では、保障されるべき高齢者の人権は「いのちと尊厳が守られる権利」「自律的で独立した権利」「最高水準の健康を享受する権利など23項目です。畑中事務局長は「高齢者人権宣言を内外に発信し、「豊かな高齢期」を



茂山社中による狂言

4, 5面に分科会報告と感想

めざして、大会の成果を持ち帰り、運動を前進させよう」と呼びかけられました。
高齢者は文化の担い手
全体会では、ゴリラ研究の第一人者である山極壽一先生から「ゴリラから学んだ多様性と共生が生かされる社会づくり」と題して講演されました。
山極先生は、ユネスコ総会での「文化的多様性に関する世界宣言」から引用され、文化的多様性が人類に必要なもので「情報・ネット社会になっても高齢者は文化の担い手です。自由な高齢者こそ、社会を活性化させる」などと参加者に行動を示唆されました。



山極先生記念講演

夕映え

テレビでフランスでの不発弾除去があると二百年かかると言っていました。第一次世界大戦の時の不発弾ですって！
そうなんです。戦争は始めるとなかなか終われない、終わらしても終わりがきらないのです◆毎月曜日のお昼、二条駅前憲法署名をしています。知らん顔で通りすぎる人が多いなか、署名してくれる人もポツポツ。「ややこしい国もあるし・・・」と不安そうな人に「戦争になったらどうするばかり岸田さんもマスコミも言うけれど、戦争にしないことが政治家の仕事。ややこしい相手ほど、ややこしい時ほど堂々と戦争はイヤと言いましょ」と話します◆戦争法が強行されて以来七年、真夏も真冬も数人が中心につづけています。週一回だけど、この時間を必ずとるのは大変、今日はさぼりたいなあと思うこともあるけれど、やっぱり「戦争はイヤ」と言い出かれます。

(K.A)

仲間増やし 活動交流のページ 29人の 新しい仲間が加入

11月の仲間増やしの状況

3か月連続で実増!

舞鶴支部はバス旅行で7名が加入!

城陽支部はサポート「絆」の助け合い活動で

2名が加入!

舞鶴5名、丹後3名、亀岡3名、左京3名、

山科3名増、右京2名、城陽2名など複数

数増 大山崎が1名増

◎舞鶴支部は12月に入っても5名増えています。

城陽支部も11月に続き、12月に4名が加入。

各支部も最後まで頑張ろう!

第35回日本高齢者大会 in 京都を終えて (お礼)

京都にて11月23日から24日に京都で開催しました第35回日本高齢者大会 in 京都は、おかげをもちまして無事終えることができました。お力添え、ご協力をいただき心からお礼を申し上げます。

大会参加者は、全国39都府県から、のべ3,394人(オンライン含む)となりました。第一日目(23日)は、5つの会場で5講座、9分科会を実施し学びました。特に第1講座では、イタリア年金者組合の代表を招き社会保障について学びました。第二日目(24日)は、ロームシアターメ

インホールに1,200人が集まり、茂山社中による狂言「蝸牛」を楽しみ、記念講演では、ゴリラ研究の第一人者である、山極壽一先生(前京都大学総長)から「多様性と共生が生かされる社会づくり」と題しての講演を聞き、「日本高齢者人権宣言」を採択しました。

大会実行委員会は、大会の成功をハネに、高齢期運動のさらなる発展に全力を上げ、日本の平和、民主主義、国民のいのち・くらしを守る運動に頑張る決意を申し上げます。

2022年11月29日

第35回日本高齢者大会
京都実行委員会

年金者組合

京都写真サークル

30周年記念

第20回写真展開催

1992年に誕生した写真サークルは40名近い会員でスタートした。当時、柴田好人さんが代表で横山健蔵先生のもとで年5回の撮影会をして、年1回写真サークルも紹介して、この形で現在に至り、今や30年を迎えることになりました。

現在は、金田紀一氏が代表で豆塚猛講師のもと、20名の会員で運営しています。2022年11月16日〜22日の間、第20回公開写真展を開き無事終了しました。



入場者は398名、コロナで世間が騒いでいる中でもこれだけの人数が見え

来ていただいている。我々も35年、40年に向かって頑張りますので、組合員の皆さんも一度サークルに顔を出してください。

事務局長 山田喜彦



選挙告示第2号

2022年度府本部役員欠員補充についての告示
全日本年金者組合京都府本部規約第7条第4項に基づき、下記のとおり2022年度府本部役員欠員補充を行いますので告示します。

全日本年金者組合京都府本部選挙管理委員会
記

- 組合員各位
1. 立候補届け出期間 2023年1月5日(木)~1月20日(金)正午まで
 2. 立候補資格 全日本年金者組合京都府本部の組合員であること
 3. 選出される役職と定数

①副執行委員長	1名
②執行委員	3名
 4. 補充される役職の任期 2022年度役員任期の残り期間
 5. 立候補の手続き
所定の用紙に必要事項を記入の上、1月20日(金)正午まで、府本部事務所内選挙管理委員会へ提出してください。
本人持参、FAX、郵送も可。但し、期限は厳守してください。
 6. 選出の方法
府本部委員会で、府本部委員(出席者)の無記名投票で選出します。

以上

秋の仲間づくり月間

文化祭各地で

感動 笑い声 共感

11月17日 山科支部

秋の文化のつどい

ここ2年間ほどコロナ禍のため、支部の大会や催しが持てないなか、11月17日の朝から夕方まで楽しい1日を過ごすことができました。午前中は、和室で抹茶とお菓子をいただきながら、組合員どうしの交流をはかりました。午後は、会場を創造活動室に移して、1部は人形劇や平和おどり、太極拳などを行いました。太極拳をご披露頂いた方からは、その演技も気合いの入った、自己紹介されたお歳とは思えないほどでした。2部では、各地でご活躍の西垣さ

んのピアノ伴奏で、会場参加者の皆さんのリクエストに応じて一時間近く楽しく歌を歌い、普段は歌ったことのない方も声が出せて良かったという感想でした。

当日の参加者は、延べ54人で、このつどいの後、組合員が3人増えました。会場では併せて、書道、絵画など組合員手作りの作品が11月末まで展示されました。

(記 浦本憲市)



11月18日 相楽支部

第13回 文化・作品展

11月18日、支部主催の「第13回文化・作品展」が、コロナ禍で2年間開催できませんでしたでしたが、3年ぶりに木津川市のいずみホール研修室で開かれました。

作品は、写真、絵画、書、

絵手紙、俳句、短歌、手芸作品などが出展されました。

女性部員はリース作りに取り組みました。以前と比べ出展作品が減少しました。

また、事前の宣伝も不十分で、閲覧に訪れたのは組合員がほとんどでした。



写真上・作品展風景
左はリース作り
下・手芸作品

11月29日 城陽支部

第26回 文化のつどい

11月29日に行われ、今回で26回を迎えます。楽しみだった仲間との昼食もやめざるを得ず、コロナに最大限の注意を払い、工夫をしながら時間を短くしての、作品展示と舞台での発表となりました。

展示された146の作品を見て、来場者からは「上手だなあ。自分もしてみたい」との声が聞かれました。中でも「作品をつくる会」が作った紙のマツタケに思わず目を奪われました。

六つの舞台発表は、さすがという言葉がびったり。仲間の手品では本当に楽しい時間を得ました。

雨の中でも100人の参加がありました。組合員ではない人も多く来られました。私たち高齢者にとって楽しい時間は何よりの喜びです。楽しみ七分を充実して仲間増やしを頑張ろうと思えました。

11月6日 亀岡支部

第17回 秋の文化祭

亀岡支部の恒例の行事である秋の文化祭は、コロナ感染症の拡大もあり、舞台発表は中止し「暮らしの中の文化作品展」のみを11月



第17回亀岡支部暮らしの中の文化作品展風景

5日、6日の両日、ガレリア亀岡工作室、創作室で実施しました。

出展者は53人(組合員でない方の作品含む)、絵画、切り絵、絵手紙や写真、書、短歌や陶芸、手芸、洋服、パッチワーク等々、多種多様な力作が出品されました。

趣味の域を超える作品も多く来場者の目をひいていました。陶芸サークルが陶器づくりの体験講習をされた方が、初めてロクロを回したと感激されていました。

初めての試みとして、地域の方と障害者の共作農産物販売コーナーや自作で小物を作られての販売代金を「国境なき医師団(最近は主としてウクライナで活動)」に寄付するコーナーも設けられました。

来場者は、2日間で170人、うち1人が年金者組合に加入されました。

高齢者大会 in 京都

報告と参加者感想

5つの学習講座と11の分科会で学習・討論がすすむ

「高齢者も若者も手をつなぎ いのち・くらしを守る政治を」を合言葉に、第35回日本高齢者大会が開催され、5つの学習講座、9つの分科会、そして移動分科会で熱心な学習・討論が行われました。

各講座、分科会に参加された組合員の方々は、内容のある学習、突っ込んだ議論ができてよかったとの感想や意見が寄せられました。

第1講座 「世界の高齢者との大交流会」 城陽支部 北村隆雄さん

イタリアの最低保障年金は8万円！
第1講座は、龍谷大学アバンティールホールにイタリア年金者組合国際部長「レオポルド・タルタニア」さんを迎えて行われました。

イタリアの年金者組合は、1948年設立、加入者は250万人。ヨーロッパ



世界の高齢者との大交流会

最大の社会組織で国外でも27の国に組織を持っています。全国、州地域組織のほか草の根として「リーグ」があります。「リーグ」は地域と密接にかかわり、政策の重要な中心です。日本の中央、府県、支部と同じような形態です。本社はローマで政治的・組織的な活動をされています。同組合は、すべての高齢者の利益を代表し、特に個人の基本的権利が常に認められ、差別のない社会において「男女平等の連帯」の価値を確認しあっています。

無(未)年金者が存在するかの質問に対し「組合員か否かの区別はしていない。社会を良くするための共同が認識されている」と回答されました。



現在、イタリアの65歳以上人口は1446万人で人口の23・8%。社会手当(最低保障)により低年金者への補償があります。

年金額はインフレ率にスライドするよう決められていて、政府がスライドをしないこともありますが、今年は一・7%の年金引き上げが行われ、来年からは7・5%引き上げられます。

日本での、本年4月からの0・4%引き下げ、10月からの75歳以上の医療費2倍化、マクロ経済スライド(物価が上がっても年金を下げる)等とは大違いです。

フランスの代表が不参加となつたことは残念でしたが、新しい旗「日本高齢者人権宣言」を高く掲げ高齢期運動の原動力にしようというアピールに基づきさらにかんはろうと思いました。

第1講座 南支部 加納さん

さすがイタリア 凄い組織率！

第1講座「世界の高齢者との大交流会」に参加した。

イタリア年金者組合(SPL)のレオポルド・タルタニアさんの話で大きな感銘を受けたのは、約250万人の組合員を擁することだ。これに別組織の2つの年金者組合員を加えると400万人とのこと。

イタリア特有の歴史的事情も学んだが、見方によれば日本もまだまだ組合員を増やせよということだ。

北上支部 上山史さん 第4分科会 原発廃止、再稼働を許さない運動

30名ほどの参加で、守田敏也さん、弁護士、大井原発訴訟の方々、いずれ方の話も良かったです。

福島原発の汚染水(処理水)たれ流し、総量が変わらないのに濃度を薄める小細工をする。福島原発の状況をこまかして東京オリンピックを誘致する。放射能の影響を小さく見せる。許せないことが続いています。

原発が広島・長崎へ落された後、日本陸軍・海軍が現地に入って調査し、結果をアメリカに報告し、それが崖元首相の戦犯開放につながったといわれました。なるほどと思いました。また原発訴訟の方が老朽原発のことを詳しく言われ、再稼働をさせないことが大事だと改めて認識しました。

ました。

夜の交流会でも「新興吟詠会」のメンバーとして出演し憲法などを吟じました。

お茶席でお茶をいただき、充実した楽しい一日を過ごしました。



山科支部 北山忠生さん 第6分科会 高齢者の人権としての交通権

公共交通の現状についての情報交換が大切です。全国で高齢化が進み、免許証の返納などにより公共交通への充実要望を求める声が広がっていることが良く解りました。

コミバスを走らせる為に地域での署名運動や議会への働きかけなどが、自治体の大小によらず取り組まれています。自治体が住民の足を守ることに不熱心なことが報告され、自治体あり方が問われました。

足を守る運動の交流や公共交通の現状について情報交換をもつとしていかならないといけないと感じました。また、事前に地元の情報を持ち寄ることも必要と感じました。



分科会報告・感想



健康に悪影響 低周波音測定のスぺシャルリスト

皆さんは低周波音問題を
ご存じでしょうか。低周波
音といわれる100ヘルツ
以下の音に反応して圧迫感、
ふらつき・めまい、不眠な
どの症状が表れ、なかには
住み慣れた自宅に住めなく
なる方がおられるのです。
低周波音の発生源として、
最近では風力発電と家庭用省
エネの機器が注目されてい
ます。大きな音を出すわけ
ではありませんが、ずっと
そこにあり、終日あるいは
夜間に作動して健康に影響
を与えるのです。翁長博さ
んは、そのような被害現場
の低周波音の状況を明らか
にするための測定を行って
おられる方です。

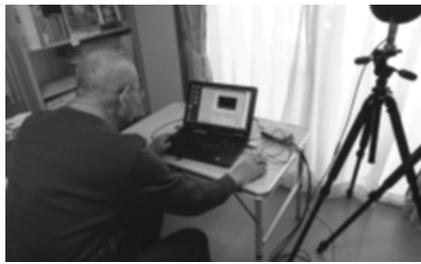
原因は家庭内にも

低周波音の影響を受ける人は全体の2〜3%と少なく、ほとんどの人は全く影響を受けないため、発生源側は長年「本人の気のせい」としてきました。しかし2000年には苦情が前年の2倍超となり、それ以降も増減はあるものの右肩上がり、ここ20年で約6倍です。発生源として当初は工場関係が多かったのですが、その後は家庭用省エネ機器(「エコキュート」など)やエアコン、室外機の割合も同程度

に増えてきました。そこで2004年に環境省が参照値を定めるなど対策を取り始めました。

大学教員のとときから

翁長さんが測定に関わるようになったのは、建築



測定器を操作する翁長さん

音響学の大学教員として定年を迎える2年前だったそうです。20年以上前に低周波音問



静かに元気に

おなが ひろし

翁長博さん

(70歳 山科支部)



低周波音問題資料

題に関わった時の仲間から手伝ってと頼まれ、現場に行くようになりました。測定の現場では4つのマイクを屋外に2つのマイクを室内に置き、パソコンとつないで20秒毎に24時間分約4300個のデータを取ります。そのデータから、突発的な車やヘリコプターの音などの影響のあるものを除いて、各時間帯の代表的なデータを6〜7分毎に抽出し、それを基に低周波音の周波数とレベル、推定音源位置を示した一覧表を作成します。これが大変で測定結果を出すのに3週間から1カ月ほどかかるそうです。実際の報告書を見せていただいたら、一覧表に色分けされた細かい数字がびっしり並んでいました。

このケースは自宅前の工場の低周波音が問題となったものでしたが、稼働時間内の数値が高く時間外は低くなっている、工場の稼働による影響がハッキリしたとのことでした。しかし、現場の状況によっては測定しても音源がハッキリしない場合も多いようです。

大企業の圧力とたたかう

実は低周波音を測定できる会社は全国に相当ありませんが、低周波音による被害を訴えるとなると電力、ガスなど大企業に対抗する必要があることから、要請があっても引き受けない会社が多いとのこと。翁長さんは一度も断ったことがなく、これまで40件以上調べてこられました。そして「環境省が定めた参照値を下回っているにもかかわらず被害が出ていない」という被害に即して対応を見直していく必要がある」と話されています。

(取材:矢吹美根子
西田美津子)